

昨年引き続き風しんが流行しています

～風しんから、おなかの赤ちゃんを守るために！～

●例年は、春から初夏にかけて流行します

風しん (rubella) は、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性の疾患です。2012年の春から、近畿地方を中心に流行が始まり、夏には首都圏へ拡大し、全国的に大流行しました。その大流行が今年に入っても続いています。大阪府や兵庫県と、奈良県と近い地域で流行していることから、注意が必要です。

●妊婦が風しんに感染すると、...

風しんは子どもが感染すると、通常あまり重くない病気ですが、妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんに感染すると、おなかの赤ちゃんも風しんに感染し、難聴、心疾患、白内障、精神運動発達遅滞などをもった、いわゆる先天性風疹症候群の児が出生する可能性があります。特に妊娠初めの3ヶ月までがその可能性が高く、妊娠早期であるほど高い傾向が認められています。

●風しんに感染していると分からない人もいます

風しんウイルスは患者さんの飛まつ(唾液のしぶき)などによって他の人にうつります。発疹の2、3日前から発疹が出た後の5日くらいまでの患者さんは感染力があると考えられています。また、ウイルスに感染しても明らかな症状がでない人もいます(不顕性感染)。しかし、不顕性感染であっても感染力には違いがありません。発疹がでる前であったり、不顕性感染だったりすると、感染力はあるのに風しんに感染しているとは分からない人がいることになります。

また、先天性風疹症候群がおこる可能性が高い妊娠早期は、妊娠に気づく前でもあります。

●10代後半から40代の女性、特に妊娠を希望する女性はワクチン接種を受けましょう

お母さんの体の中に免疫がしっかりできあがっていれば、おなかの赤ちゃんにうつることもありません。妊娠を希望する女性は、妊娠していない時期にワクチン接種を受けましょう(ワクチン接種後2ヶ月は避妊が必要です)。すでに免疫を持っている方が再度ワクチン接種を受けても、特別な副反応がおこるなどの問題はありません。そのような方の場合、ワクチン接種で風しんに対する免疫をさらに強化する効果が期待されます。なお、妊娠中はワクチン接種を受けることが出来ません。

●妊婦さんの周りの人もワクチン接種を受けましょう

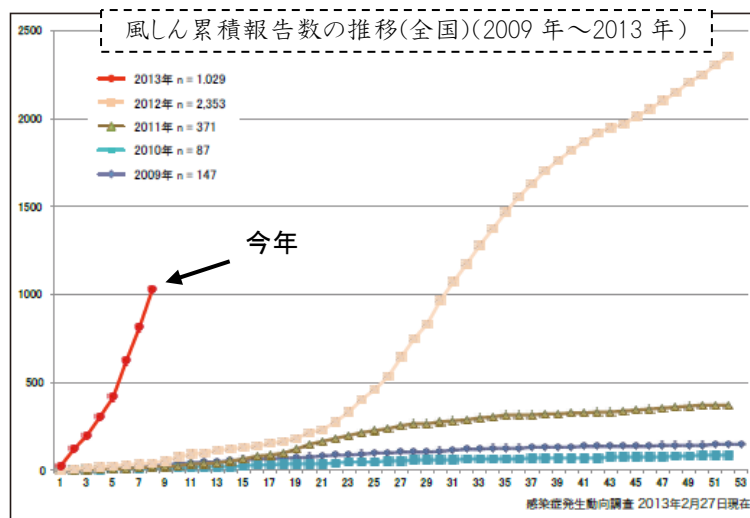
稀に、ワクチン接種を受けても抗体が十分出来ない方もいます。そういった妊婦とおなかの赤ちゃんを守るためにも、過去に「風しんにかかった」「予防接種を受けた」「風しん抗体がある」がはっきりしない場合は、妊婦さんの周りの人もワクチン接種を受けましょう。特に、妊婦の夫、子ども、同居のご家族は、ワクチン接種を受けましょう。

●考えてください、...

二人目を妊娠中に、上の子の保育園のお友達から感染するとか、まだ妊娠に気づいていない新婚の女性が職場の同僚から感染するとか、考えられることはたくさんあります。大人の不注意で、おなかの赤ちゃんに障害を背負わせるようなことがないよう、考えてみて下さい。

風疹 Q&A <http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

IDWR (2013年第6週) <http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/pdf/latest.pdf>



(感染症情報センター 記)

話題